

名古屋市 地域振興課

学区広報紙紹介

★見付学区広報紙の作成者にインタビューしました★

こちらが広報紙を作成されている黒岩さんです。



①広報紙の役割とは？

○学区の地域特性や住民の立場に立ち、住民に知っていてもらいたいことを広く知らせ、日頃の暮らしやコミュニティのあり方についての「気づき」を提供しています。

②広報紙を作る体制は？

- 1人の編集担当者を中心に作成しています。各号のテーマ設定や校正の際には、学区連絡協議会や地域福祉推進協議会の役員などに相談して協力いただいています。
- 特集の内容については、テーマに関係する団体にヒアリングし、参考資料や写真などを提供していただいています
- 学区活動については、編集担当者が取材するほか、関与者や参加者に依頼して写真撮影とメモ作成を依頼しています。
- 広報紙完成までの時間ですが、ヒアリングなどの情報収集で10日、その後の文章の作成やレイアウト編集、校正などが1週間程必要です。(この時間は正味ですので、テーマの切り口を考えるのに一ヶ月以上かかることもあります。)

③発行頻度・配布方法は？

- 基本的に、年に2回発行しています。
- 区政協力委員会(＝学区連絡協議会定例会)の日に区政協力委員に渡し、配布しています。方法は、全戸に直接配布するか、回覧板に入れて取ってもらっています。

④広報紙作りで工夫していることは？

- 教訓やことばだけの空疎な物言いをできるだけ避けています。常識や当たり前と思われることも、住民目線や実感に立って本当にそうなのかを考えています。
- 例えば、「ごみ出し方法が乱れること」＝「マナーが悪い」と決めつけず、他地域からの転入者が「知らない」ことが原因かもしれないと考えてみます。この原因であれば、いかにして「知らせる」かが解決への具体的な課題となります。また、役員の形式的な挨拶文はなるべく掲載しないようにしています。
- できる限り文章を平易にし、ボリュームも少なめにして、写真やイラストで表現するようにしています。イラストはインターネットからダウンロードしたり、イラストレーターに作成してもらっています。
- 長い文章のところは、大見出し→小見出しで、内容が伝わるようにしたり、疑問を投げかけて本文を読んでみようという気持ちになってもらうようにしています。
- 特集テーマについては、関係者へのヒアリングだけでなく、インターネットや書籍などからも情報を収集し、地域に必要な切り口や本質的な視点を探り出すとともに、内容を深めるようにしています。テーマは、学区コミュニティの自治組織や諸団体の活動紹介、学区の防災などを選んでいますが、あくまでも住民目線が大切なので、一般知識の羅列にならないように気をつけています。

⑤広報紙に対する住民の反応は？

⑥広報紙によって地域コミュニティに変化は？

- 回覧板をあまり見られていない方もいるので、広報紙を回覧板で配ると読んでいただけない可能性が高いように思います。
- 読んでいただいた人からは、好評価をいただくこともあります。
- 広報紙そのものの効果は把握しにくいですが、最近ではコミュニティに対する関心が徐々に高まり、雰囲気も明るくなって、行事などへの参加も少しずつ増加しているように感じます。(例えば、夏まつりは学区外からも含めて来場者が年々増加しています)
- 活動に参加するメンバーはある程度固定している傾向はありますが、小学校つながりなどにより、新しい参加者が少しずつ増えています。強制されて嫌々参加するというよりも、自ら進んで参加し、できる範囲の役割を担って楽しそうに活動しているように感じます。
- 住民に開かれたコミュニティづくりのためには、地域コミュニケーションを継続していくことが大切と考えています。

⑦広報を担当していてよかったこと(やりがい)は？

- 色々な団体とふれ合う中で顔見知りが増え、顔を覚えてもらったことです。
- 今回のヒアリングのように、学区外でも知っていただいていることです。
- 自分が作成したものが住民の方に読んでいただけることは、それだけで嬉しいです。

⑧発行費用はどれぐらいですか？

- 4,000部印刷して、1回の発行に5万円程度必要です。内訳は印刷代と取材時の駐車料金です。デザインについては、担当者がグラフィック、広告、企画プロデュースをしている会社に勤めているため、ボランティアで行っています。そのため、費用はかかっていません。
- 印刷はネット印刷の会社にデータを送付して依頼しています。文字化けもしないのでよいです。
- コミュニケーションのための費用を削らないようにしています。

**見付学区広報紙の作成者様、
ご協力ありがとうございました！！**